HONDA

30KV3640
00X30-KV3-6400

Ⓜ HC 2008901K
本田技研工業株式会社

ヘルメットをかぶろう
●点検整備を充分にしよう●正しい服装で安全運転しよう

取扱説明書をよく読んで
安全な運転をしましょう。

ホンダ
NSR250R
NSR250R SP

取扱説明書

ご案内

このたびはホンダ車をお買いあげいただきありがとうございました。
お車や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた〈ホンダ販売店〉
または下記の〈ご相談窓口〉にお気軽にお申しつけください。
なお、各地区のホンダ二輪代理店でもお受けいたしております。

名　　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
本田技研工業株式会社　お客様相談室	03(423)4211	107	東京都港区南青山２－１－１
本田技研工業株式会社　お客様相談室　北海道	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町２条10－２－29
本田技研工業株式会社　お客様相談室　仙　台	022(288)6561	983	宮城県仙台市六丁の目西町１－10
本田技研工業株式会社　お客様相談室　名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通４－22
本田技研工業株式会社　お客様相談室　大　阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町２－12
本田技研工業株式会社　お客様相談室　九　州	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

●所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
●ホンダ二輪代理店につきましては別冊「整備手帳」の住所一覧をご覧ください。

ご乗車のまえに

この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。
より快適に、より安全にお乗りいただくために、この説明書をぜひお読みください。また整備手帳、セーフティポインツ(安全にお乗りいただくためのアドバイス)もぜひお読みください。

- 車両の仕様、その他変更により、本書の写真および絵などが実車と異なる場合がありますのでご了承ください。
- この車は、運転者を含めて２人まで乗車できます。
- 本書は、ＮＳＲ250Ｒを中心に説明してあります。

お買いあげになりましたら、ホンダ販売店にて「取扱説明書」「整備手帳」「セーフティポインツ」を受け取り、下記の説明を受けてください。

★お車の正しい取扱いかた
★保証内容と保証期間
★車両受領書・保証書受領書記入・捺印
★点検・整備について

目　次

安全運転のために……4
各部の名称……12
メータの見かた、使いかた……14
計器類……14
速度計（スピードメータ）……14
積算距離計（オドメータ）……14
区間距離計（トリップメータ）……14
エンジン回転計（タコメータ）……15
水温計……16
警告灯・表示灯……17
速度警告灯……17
オイル警告灯……17
方向指示器表示灯……18
前照灯上向き表示灯（ハイビーム
パイロットランプ）……18
ニュートラル表示灯……18
スイッチの使いかた……19
メインスイッチ……19
前照灯（ヘッドライト）・ポジションランプ……20
エンジンキルスイッチ……21
ホーンボタン……22
パッシングライトスイッチ……22
方向指示器スイッチ……23
装備の使いかた……24
ヘルメットホルダ……24
ハンドルロック……25
後席用ステップ……26
フロントクッションの調整……27
リヤクッションの調整……29
ブレーキレバーの距離調整……31
ブレーキペダルの高さ調整……32
シート……33
書類・小物入れ……35
携帯工具入れ……36
サイドカバー……37
メンテナスリッド……38
ロワカウル……39
ガソリンの補給……40
燃料コック……41
正しい運転操作……42
エンジンのかけかた……42
チェンジのしかた……45
走りかた……45
ブレーキの使いかた……48

点検、整備を安全に行うために……49
法定点検……52
運転前点検……53
前日の異常箇所の点検……54
ブレーキの点検……54
タイヤの点検……56
エンジンオイル量の点検……58
燃料の量の点検……58
冷却装置の点検……59
灯火装置、方向指示器の点検……60
後写鏡（バックミラー）の写影の点検……60
自動車登録番号標(ナンバプレート)の汚れ、損傷の点検……60
反射器の汚れ、損傷の点検……60
6か月点検……61
かじ取りホーク（フロントホーク）の点検…62
ブレーキの点検……63
タイヤの点検……67
バッテリ液量の点検……69
クラッチの点検……70
ドライブチェーンの点検……71
エンジンオイルの点検……72
トランスミッションオイルの点検……73
燃料漏れの点検……75
冷却水量の点検……75
灯火装置、方向指示器の作用の点検……76
シャシ各部の給油脂状態……76
簡単な整備……77
ブレーキ液の補給……78
クラッチレバーの遊びの調整……80
バッテリターミナル部の清掃……81
ヒューズの交換……83
エンジンオイルの補給……85
ドライブチェーンの給油……87
冷却水の補給……88
サイドスタンドの点検……89
車のお手入れ……90
アルミ部品、マグネシウムホイールの取扱い…91
エキゾーストパイプの取扱い……92
色物部品をご注文のとき……93
エンジンが始動しないとき……94
主要諸元……95
サービスデータ……97
配線図……巻末

安全運転のために

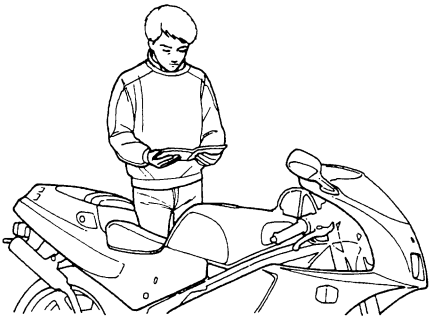
ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものですので、これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。
車に乗るとき、いつも心がけなければならない重要な注意事項を書いた「**安全項目ラベル**」が車に貼ってありますので、これらの注意をいつもお守りください。

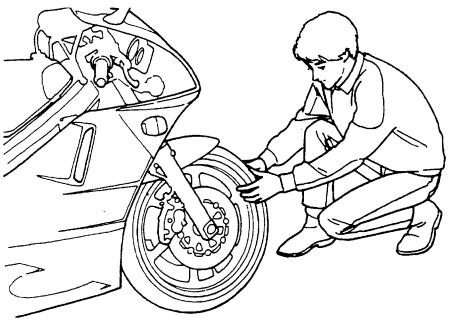
- □ **ヘルメットをかぶりましょう。**
- □ **法定速度を守りましょう。**
- □ **マフラは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。**
- □ **定められた点検整備を励行しましょう。**

運転する前に

- **取扱説明書をよく読んでください。**

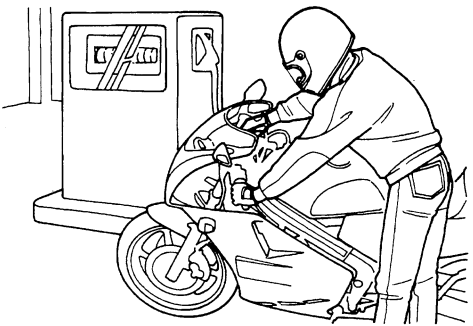


● **運行前点検を行ってください。**
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
運行前点検は、53 ページ参照。

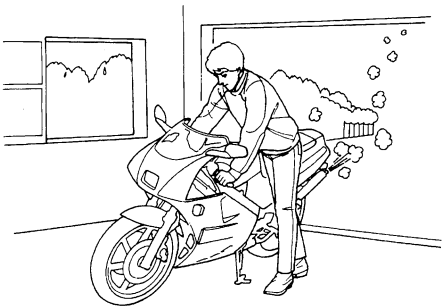


● **6か月点検をうけてください。**
6か月点検は、61 ページ参照。

● 補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

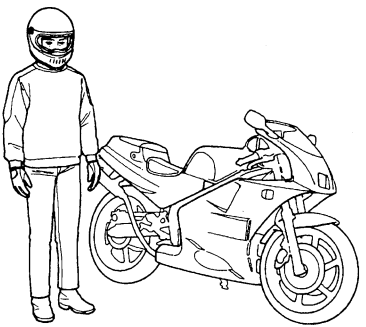


- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。**エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。**



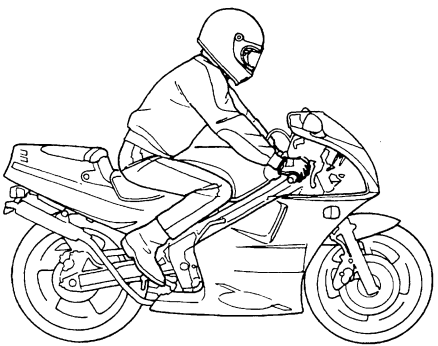
服装

- **運転者を守るヘルメットを必ず着用しましょう。グローブ・ゴーグル**など着用するよう心がけてください。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。ブレーキレバーやクラッチレバーに引掛かったり、ドライブチェーンなどの回転部分に巻き込まれたりして危険です。
- ブレーキ操作やチェンジ操作に支障をきたすようなはきものはやめましょう。

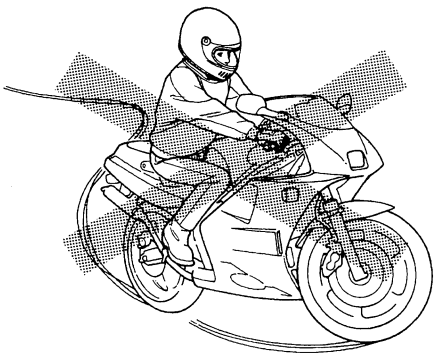


乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。うしろに乗る人には、両手でからだをしっかり固定させ、両足は必ず、後席用ステップにのせさせてください。

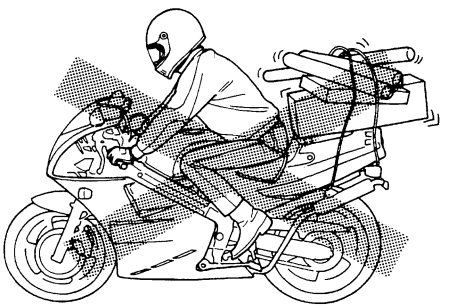


- **急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。**
  これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



荷物

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、**“積み過ぎない”**、**“荷物を固定する”**など十分注意し、安全に走行してください。



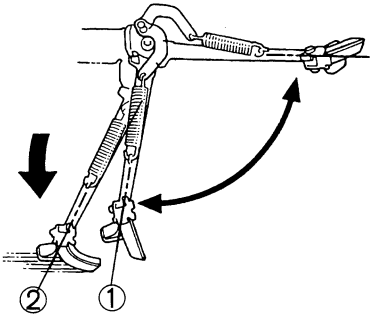
改造

- **車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。**
  このような改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
  車の改造は保証が受けられません。

駐車

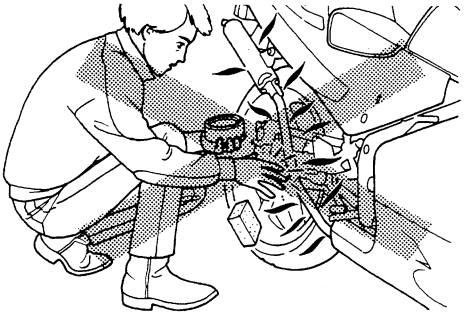
サイドスタンドを使用するときの駐車について

- このモデルのサイドスタンドは、2段モーション式です。
  スタンドを出すと、①の位置で止まり、車体を傾けると接地したラバーの作用で②の位置(駐車位置)へ動き、車体を支えます。
  また、駐車状態から車体を起こすと、サイドスタンドは①の位置へ動きます。
- **車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。**
  次のような状態では、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
  - ハンドルを右にきった状態での駐車。
  - 傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟かい所等での駐車。
  - やむをえず上記のような不安定な場所に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。



- **交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。**
- **マフラは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。**

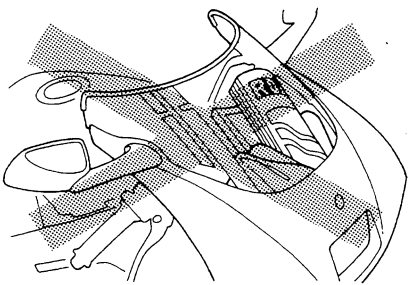
- エンジン回転中や停止直後は、**エンジン本体やマフラの一部が熱くなっています。**直接触れないでください。



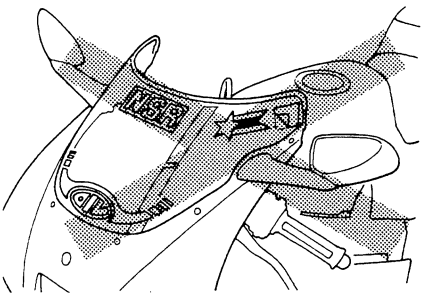
フェアリングの取扱い

フェアリングの取扱いには次の注意事項をお守りください。

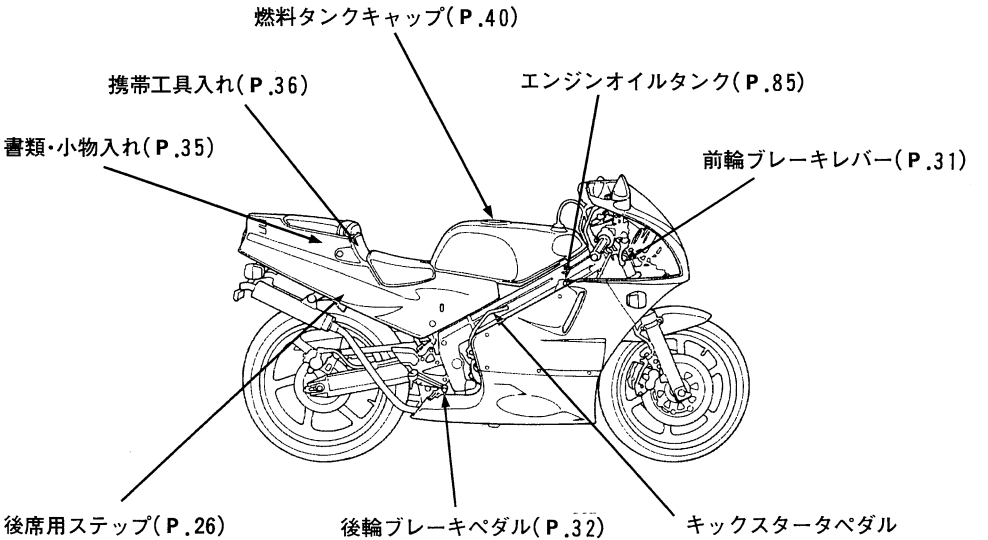
- ウインドスクリーン、フロントフェンダは傷がつきやすいので、清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落してください。
- 汚れのひどい時は、中性洗剤を使用してください。
- フェアリングと車体との間に物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響があります。

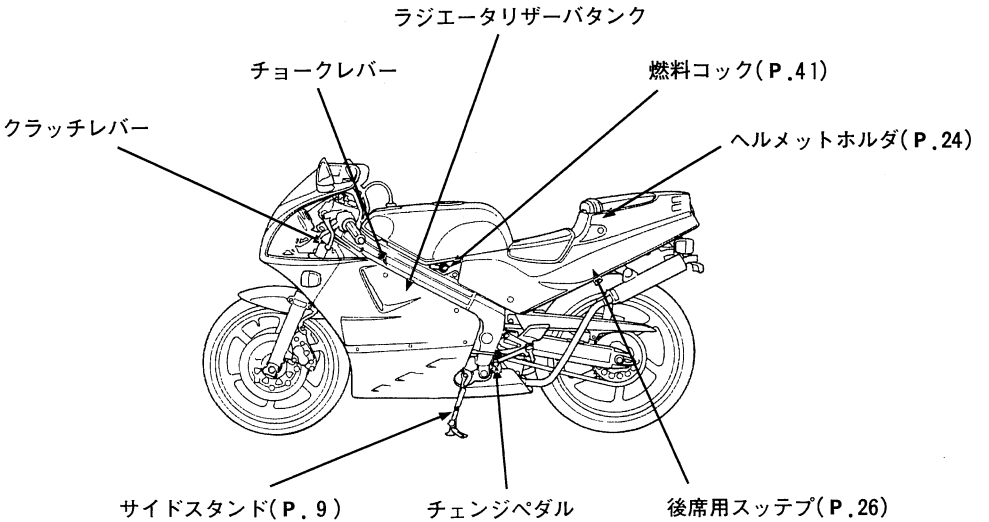


- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液等の化学物質がメータ、ウインドスクリーン、フェアリング、サイドカバー等の樹脂部品にかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
- ウインドスクリーンにシール類を貼るとスクリーンを汚損しますので、シール類を貼らないでください。
- **ウインドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。**



各部の名称


燃料タンクキャップ(P.40)
携帯工具入れ(P.36)
エンジンオイルタンク(P.85)
書類・小物入れ(P.35)
前輪ブレーキレバー(P.31)
後席用ステップ(P.26)
後輪ブレーキペダル(P.32)
キックスタータペダル

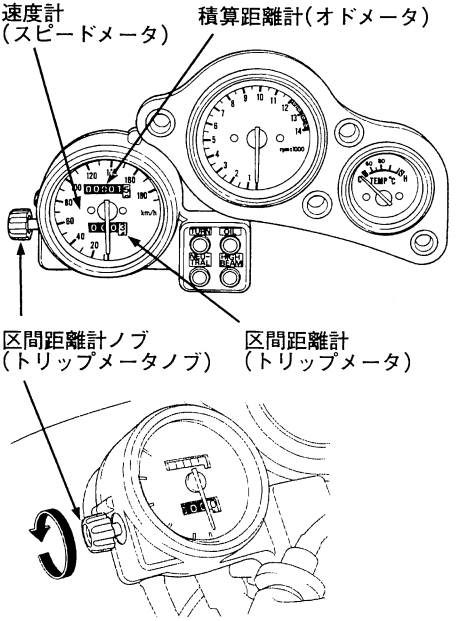

ラジエータリザーバタンク
チョークレバー
燃料コック(P.41)
クラッチレバー
ヘルメットホルダ(P.24)
サイドスタンド(P.9)
チェンジペダル
後席用スッテプ(P.26)

計器類

速度計(スピードメータ)
走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

積算距離計(オドメータ)
走行した総距離をｋｍの単位で示します。
白地に黒数字は100mの単位です。

区間距離計(トリップメータ)
メータを“０”に戻した時点からの走行距離を示します。
戻すときは、区間距離計ノブ(トリップメータノブ)を矢印の方向に回します。

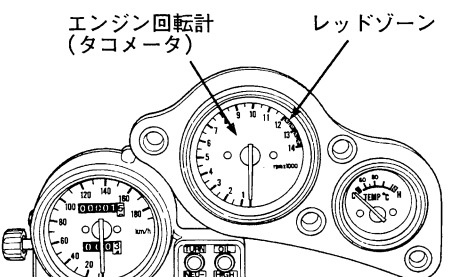


エンジン回転計(タコメータ)
エンジンの回転数を示します。

注意

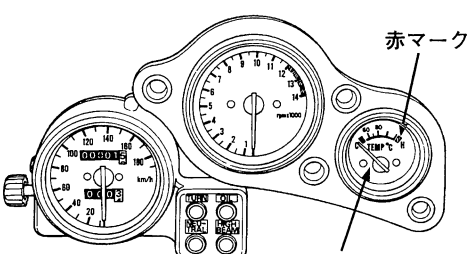
- 慣らし走行後もエンジン回転は、エンジン回転計(タコメータ)のレッドゾーンに指針が入らないように注意し走行してください。
- 空吹かし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。

レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものでレッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になりエンジン寿命に悪影響を与えます。



水温計

エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は、指針が目盛の赤マークより内側にあるのが正常です。指針が赤マークを指していたら、リザーバタンクの液量を点検してください。
リザーバタンクの液量の点検は、59 ページ参照。



注意

- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、指針が赤マークを指す場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。

警告灯・表示灯

速度警告灯《装備車のみ》

速度計(スピードメータ)の指針が85ｋｍ／ｈ付近になると、点灯します。

オイル警告灯

メインスイッチのキーを“ＯＮ”にすると点灯し、数秒後に消えるのが正常です。

オイルタンク内のオイルが少なくなると点灯します。点灯したら、**ホンダウルトラＧＰ２**(分離給油用＝赤色)を補給してください。

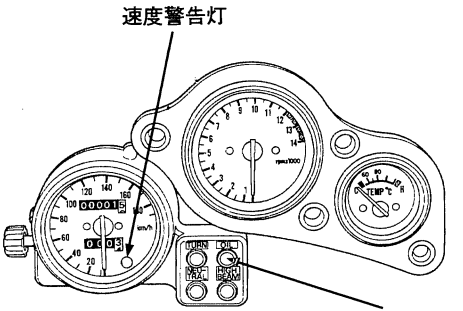
オイル警告灯が点灯するのはオイルタンク内のオイルが下記の容量になったときです。

オイル警告灯点灯時容量 ： 約 0.25 ℓ

エンジンオイルの補給は、85 ページ参照。

注意

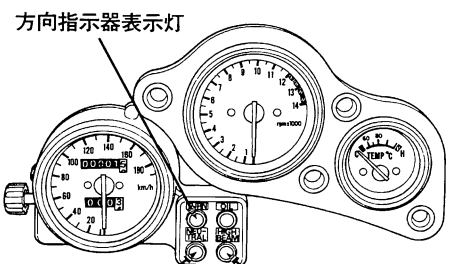
- 数秒たってもオイル警告灯が消えない場合は、オイルが少なくなっています。早めに推奨オイルを補給してください。
- 走行中にオイル警告灯が点灯した場合も早めに推奨オイルを補給してください。
- メインスイッチを“ＯＮ”にしてもオイル警告灯が点灯しない場合は、球切れかバッテリあがりまたは、回路の異常です。ホンダ販売店で、点検・整備を受けてください。



方向指示器表示灯
方向指示器が点滅しているときに点滅します。

前照灯上向き表示灯(ハイビームパイロットランプ)
前照灯(ヘッドライト)が点灯し、照射角が上向きのときに点灯します。

ニュートラル表示灯
メインスイッチのキーが“ＯＮ”の位置にありチェンジがニュートラルの位置にあるとき点灯します。

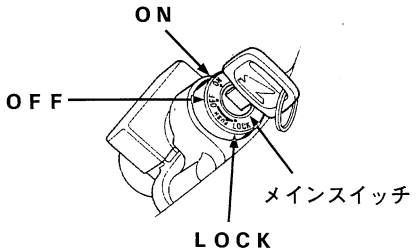


スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作用	キーの脱着
ON	始動・昼夜間走行 警音器(ホーン)・方向指示器・制動灯(ストップランプ)・前照灯(ヘッドライト)・ポジションランプなどが使える	抜けない
OFF	停止 電気回路を全部遮断する	抜ける
LOCK	ハンドルロックができる 電気回路を全部遮断する	抜ける



注意

- 走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。
  メインスイッチのキーを“ＯＦＦ”や“ＬＯＣＫ”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながる恐れがありますので必ず停車してから操作してください。
- 車をはなれるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。

前照灯(ヘッドライト)・ポジションランプ

《ライトのつけかた》

メインスイッチのキーを“ＯＮ”にし、前照灯スイッチ(ライティングスイッチ)で行います。

スイッチの位置	作　　用
H	前照灯(ヘッドライト)・ポジションランプ・尾灯(テールランプ)点灯
P	ポジションランプ・尾灯(テールランプ)点灯
●	消　　灯

- ポジションランプは、薄暮走行時に対向車への位置表示ができます。また夜、交差点で停止したときなど対向車に眩惑を与えることなく自車の存在を知らせることができます。

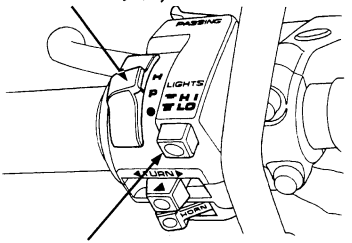
《前照灯(ヘッドライト)の上下切換え》

前照灯上下切換えスイッチを押して行います。

ＨＩ……前照灯(ヘッドライト)が上向き

ＬＯ……前照灯(ヘッドライト)が下向き

前照灯スイッチ
(ライティングスイッチ)



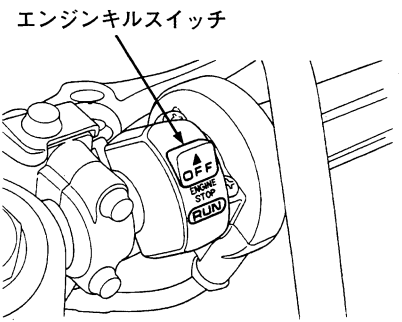
前照灯上下切換えスイッチ
(ヘッドライト上下切換えスイッチ)

エンジンキルスイッチ

エンジンキルスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたときなど非常の場合に、手もとですぐにエンジンを止めるために設けたものです。
通常は“ＲＵＮ”の位置にしておいてください。
“ＯＦＦ”の位置ではエンジンはかかりません。

注意

- **エンジンキルスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。**走行中にキルスイッチをＲＵＮ→ＯＦＦ→ＲＵＮにすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼす恐れがあります。
- 非常時にエンジンキルスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを“ＯＦＦ”にしてください。“ＯＮ”のままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。



ホーンボタン

メインスイッチが“ＯＮ”のとき、警音器ボタン(ホーンボタン)を押すと警音器(ホーン)が鳴ります。

パッシングライトスイッチ

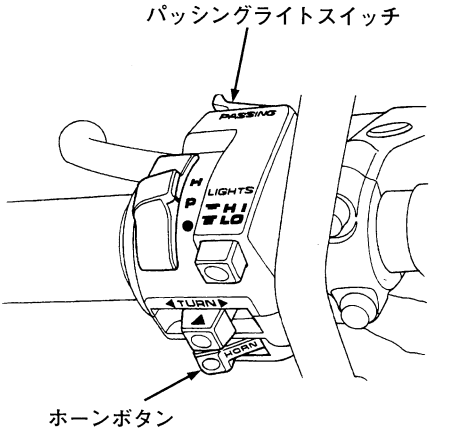
追越しのときに、自車の存在を知らせるためのものです。

《使いかた》

パッシングライトスイッチを押して行います。

注意

- 前照灯(ヘッドライト)を点灯し、前照灯上下切換えスイッチが上向きのときは作動しません。



方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ＯＮ”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

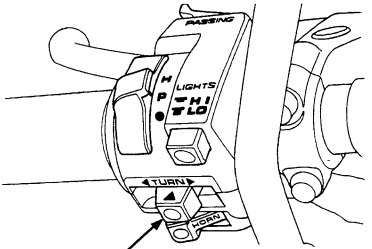
解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

▶ ……右折

◀ ……左折

注意

- 電球（バルブ）は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。
- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。



方向指示器スイッチ

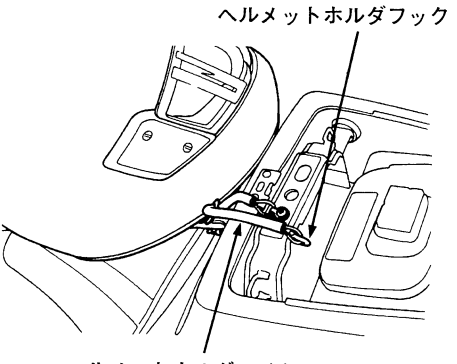
ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダを利用しますと、車を止めた時ヘルメットを持ち歩く必要がありません。また、ロックができますから盗難を予防します。

《使いかた》

1. リヤシートを取外します。(34ページ参照)
2. ヘルメットホルダワイヤをヘルメットの金具に通し、ホルダフックにかけます。
3. リヤシートを取付けます。(34ページ参照)

- ヘルメットホルダを使用しないときは、ヘルメットホルダワイヤをフックに掛け、リヤシート下に格納してください。



注意

- ヘルメットをヘルメットホルダにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると車の部品に損傷を与えたり、後輪の回転を妨げることがあります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

《かけかた》

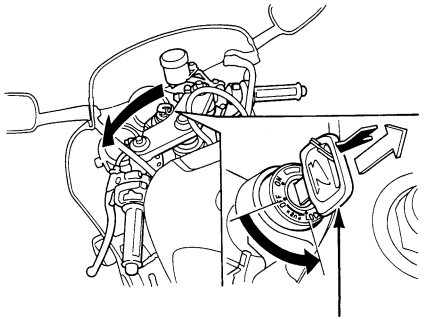
1．ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2．メインスイッチにキーを差し込みます。
3．キーを押し込みながら、“ＬＯＣＫ”の位置まで回します。
4．キーを抜きます。

《外しかた》

- かけかたの逆の要領で行います。

注意

- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。



メインスイッチのキー

注意

- 走行前は、ハンドルを左右に切って切れ角が左右均等であるかを確認してください。

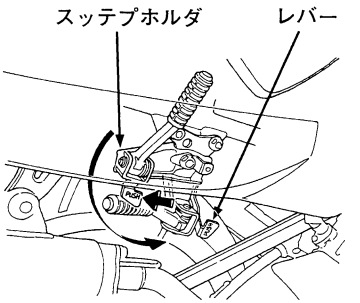
後席用スッテプ

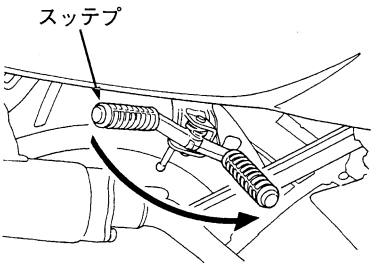
この車には、格納式の後席用ステップが装備されています。後席に人が乗る場合は、必ず後席用ステップを使用してください。

《使いかた》

1. レバーを押しながら、ステップホルダを下方に出します。
2. レバーを戻し、ステップホルダを軽く動かして、ステップホルダが固定されたことを確認します。
3. ステップを外側に出します。

● ステップの格納は、逆手順で行ってください。

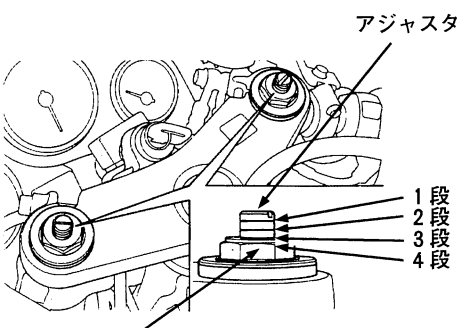




フロントクションの調整《ＮＳＲ２５０Ｒ》

フロントクッションの強さは、4段階に調整できます。
体重や路面の状態に応じて調整してください。
調整は、マイナス⊖ドライバでアジャスタを回し、アジャスタの目盛とフォークボルト上端面を合わせて行います。
アジャスタの上部から3段目の目盛が基準で、4段目が弱く、2～1段目と強くなります。

注意
- 左右の強さは、必ず同じにしてください。



《ＮＳＲ250Ｒ　ＳＰ》

フロントクッションは、スプリングのプリロードと伸び側（ＴＥＮ）減衰力が調整できます。体重や路面の状態などに応じて調整してください。

《プリロード調整のしかた》

調整は、スパナでプリロードアジャスタを回し、アジャスタの目盛とフォークボルト上端面を合せて行います。

アジャスタの上部から３段目の目盛が標準で、１～６段目までが調整範囲です。４～６段目と弱くなり、２～１段目と強くなります。

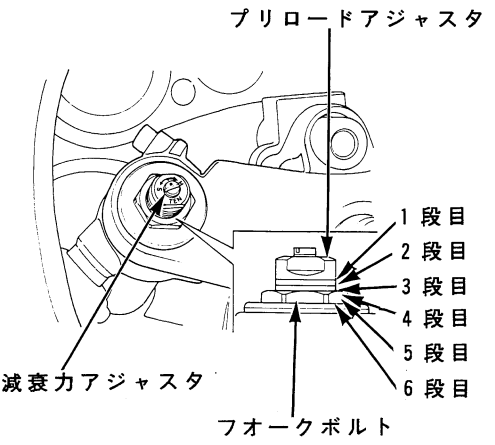
《減衰力調整のしかた》

調整は、マイナス⊖ドライバで減衰力アジャスタを回し、各クリックの位置に合せます。

減衰力は、アジャスタをＨ側（右回り）に回すと強く、Ｓ側（左回り）に回すと弱くなります。

アジャスタをＨ側に止まるまで回します。この位置のクリックを含めＳ側に１２クリック目までが、有効調整範囲です。また、６クリック目が標準です。

注意
- アジャスタは、無理に回さないでください。
- 左右の強さは、必ず同じにしてください。



リヤクッションの調整《ＮＳＲ250Ｒ ＳＰのみ》

リヤクッションは、伸び側（ＴＥＮ）減衰力と縮み側（ＣＯＭＰ）減衰力がそれぞれ単独で調整できます。体重や路面の状態などに応じて調整してください。

《調整のしかた》

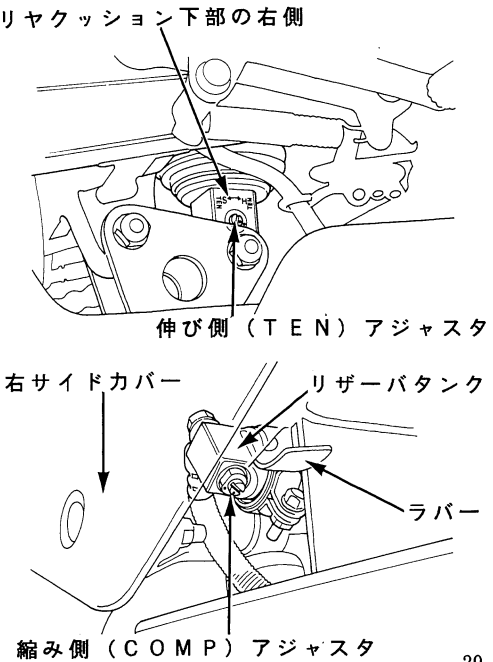
調整は、マイナス⊖ドライバでアジャスタを回して行います。

減衰力は、アジャスタをＨ側（右回り）に回すと強く、Ｓ側（左回り）に回すと弱くなります。

《標準》

- 伸び側（ＴＥＮ）の標準は、アジャスタをＨ側に止まるまで回した後、Ｓ側に約１／２回転戻しポンチマークが合う位置です。
- 縮み側（ＣＯＭＰ）の標準は、アジャスタをＨ側に止まるまで回した後、Ｓ側に約１回転戻しポンチマークが合う位置です。

注意
- アジャスタは、無理に回さないでください。



注意

クッションユニットは高圧の窒素ガスが封入されておりますので下記事項を必ず守ってください。

- 火中に入れたり、穴をあけたり、分解したりしないでください。
  爆発やオイルの吹き出しなどが起り、危険です。
- 廃却する際は、ホンダ販売店へお申しつけください。

ブレーキレバーの距離調整

ブレーキレバーには、ハンドルグリップからの距離を微調整できるアジャスタが装備されています。

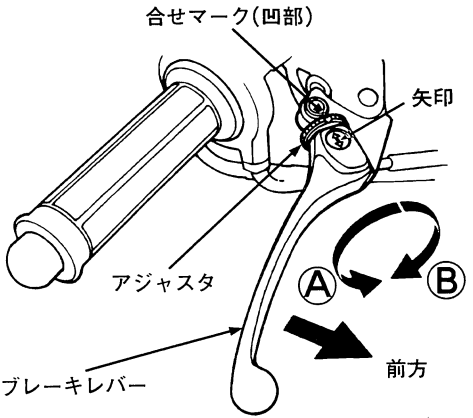
《調整範囲》

ブレーキレバーを前方に押し、レバーのガタを調べます。アジャスタをⒶ方向に回し、レバーのガタをなくします。

このときのアジャスタ位置から、アジャスタをⒷ方向に回し止まる位置までが、調整可能な範囲です。

《調整のしかた》

アジャスタを手で回し、調整範囲内で合せマーク(凹部)を矢印(手ごたえのある位置)に合せます。



注意

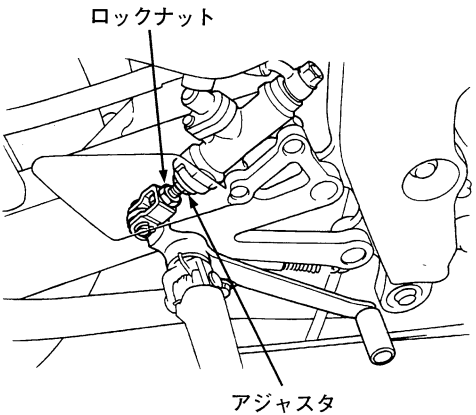
- 調整範囲を越えてアジャスタを回さないでください。
- 調整後は、前輪ブレーキレバーの遊びを点検してください。(54 ページ参照)

ブレーキペダルの高さ調整

ブレーキペダルの高さは、若干の調整ができます。調整はロックナットをゆるめアジャスタで行います。

注意

- 調整後、確実にロックナットを締付けてください。
- ブレーキペダルの高さ調整を行った後は必ず制動灯(ストップランプ)が点灯するか確認してください。



シート

フロントシート

《取外し》

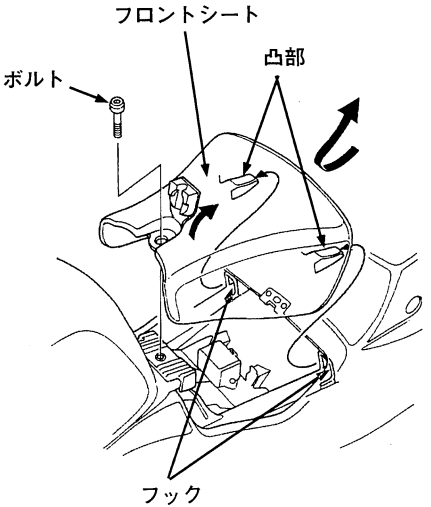
1．シート前方のボルトを外します。
2．シートを前方へずらしながら持ち上げて取外します。

《取付け》

1．シートの凸部をフレームのフックに差し込みます。
2．シート前方をボルトでしっかりと締付けます。

注意

- シートの下に布等を入れないでください。焼損することがあります。



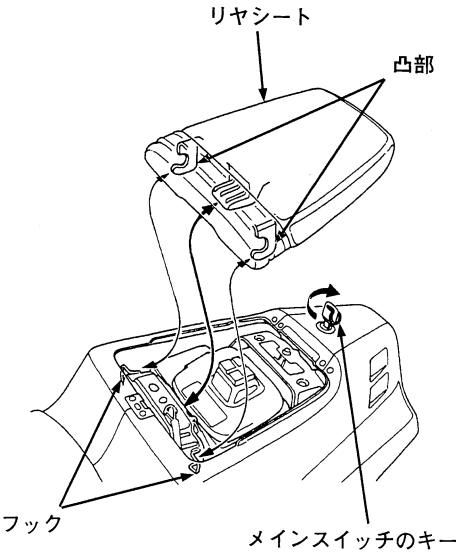
リヤシート

《取外し》

1．メインスイッチのキーを差し込み、右に回しながらシート後側を持ち上げてロックを解除します。
2．シートを後方に持ち上げてを取外します。

《取付け》

1．シートの凸部をフレームのフックに差し込みます。
2．シート後側を押し下げてロックします。
シートを軽く持ち上げてロックがかかったことを確認してください。
3．キーを抜きます。



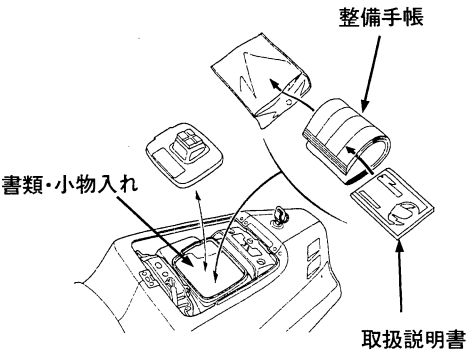
書類・小物入れ

リヤシートの下に書類・小物入れがあります。取扱説明書や整備手帳は、ここに保管してください。

- リヤシートの脱着は、34 ページを参照してください。

注意

- 書類・小物入れ内への積載は、1kg以下です。
- 書類・小物入れ内以外の場所に物を入れないでください。
- 書類・小物入れを取外して、物を置かないでください。
- 洗車時、シートの下方から強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。

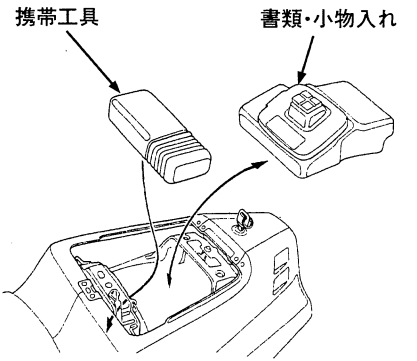


携帯工具入れ

リヤシート下、書類・小物入れの前方に携帯工具入れがあります。携帯工具は、ここに格納してください。

携帯工具入れの出し入れを行うときは、書類・小物入れを取外してください。

- リヤシートの脱着は、34 ページを参照してください。



サイドカバー

左右のサイドカバーは後部で継がっていますので取外すときは、次の要領で行ってください。

《取外し》

1. フロントシート、リヤシートを取外します。（33、34 ページ参照）
2. 左右の後席用スッテプを出します。
3. 左右のビスを外し、フックを外します。
4. カバー後側を少し持ち上げ、尾灯(テールランプ)コードカプラの接続を外します。
5. 左右のカバーの前部を少し開きながら、カバーを後方に取外します。

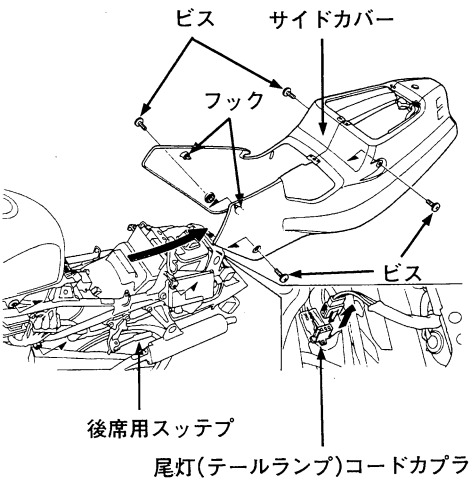
《取付け》

取付けは、取外しの逆手順で行います。

- リヤシートの取付けを行う前に、メインスイッチのキーでシートロックが作動することを確認してください。

注意

- エンジン停止直後は、エンジン本体、エキゾーストパイプ、マフラなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。



メンテナンスリッド

《取外し》

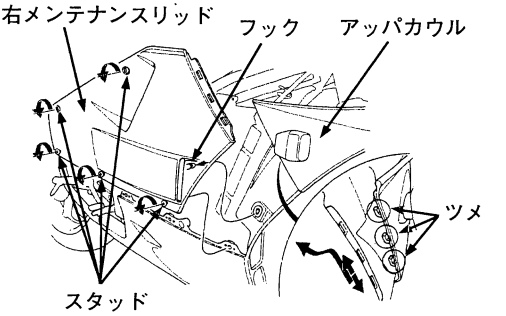
1. 右メンテナンスリッドは、スタッドを 90° 左に回しロックを外します。
   左メンテナンスリッドは、ビスを外します。
2. フックを外します。
3. アッパカウルとの合せ部を上方に動かし、ツメから外します。

《取付け》

1. アッパカウルのツメにメンテナンスリッドの合せ部をセットします。
2. フックをセットします。
3. 右メンテナンスリッドは、スタッドを右に回しロックします。
   左メンテナンスリッドは、全てのビスを仮付け後、締め付けます。

注意

- エンジン停止直後は、エンジンなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。



ロワカウル

ロワカウルは分割できますが、脱着は一体で行ってください。

《取外し》

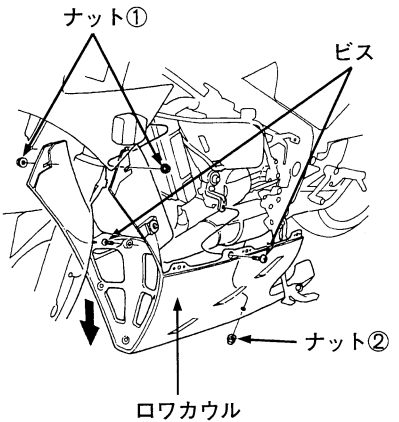
1．左右のメンテナンスリッドを取外します。(38ページ参照)
2．左右のナット①を外します。
3．ナット②を外します。
4．左右のビスを外します。

《取付け》

1．左右のビスを仮付けます。
2．ナット②を仮付けます。
3．左右のナット①を仮付けます。
4．ビス、ナット②、ナット①を締め付けます。

注意

- エンジン停止直後は、エンジン本体、エキゾーストパイプ、マフラなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

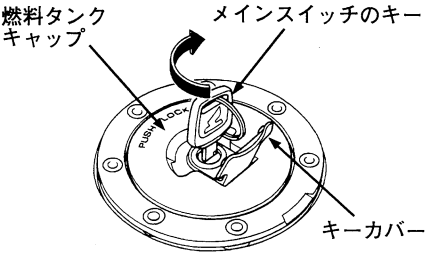


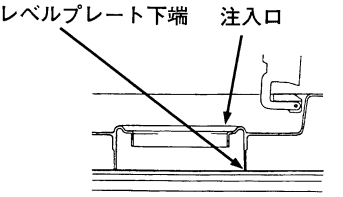
ガソリンの補給

- キーカバーを開けて、メインスイッチのキーを差し込み右に回すと燃料タンクキャップが開けられます。
- ガソリンは注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。**(無鉛ガソリン)**
- 閉じるときは、手で確実に押してメインスイッチのキーを抜いてください。(燃料タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません)

注意

- 補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。
- ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。
- 燃料タンクキャップは、確実にしめてください。





燃料コック

燃料コックレバーの矢印がそのときの位置を示します。

ON ・・・ キャブレータにガソリンが流れます。エンジンを始動するときはこの位置にします。

OFF・・・ キャブレータにガソリンが流れません。乗車するとき以外は、この位置にします。

RES・・・ 予備燃料です。“ON”で走行中燃料がなくなったらこの位置にします。早めにガソリンを補給してください。
補給後は“ON”に戻してください。戻し忘れると、走行中に予備燃料がなくなり走行できなくなります。
予備燃料容量: 約2.5 ℓ

ON

OFF

RES

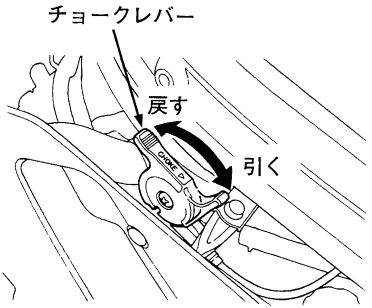
エンジンのかけかた

※この車のチョークレバーは、“ＯＮ”“ＯＦＦ”のいずれかの位置だけでしか使用できません。ハーフチョークでの使用はできませんので、ご注意ください。

●エンジンが冷えているとき

1. エンジンキルスイッチが“ＲＵＮ”になっていることを確認します。
2. 燃料コックレバーが“ＯＮ”になっていることを確認します。
3. メインスイッチを“ＯＮ”にします。
4. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
5. チョークレバーをいっぱいに引きます。(“ＯＮ”の状態)
6. スロットルグリップを回さずに(完全に戻した状態)、キックスタータペダルを力強くキックします。
7. エンジンがかかったらチョークレバーが“ＯＮ”の状態で暖機運転を続け、回転が下がってきたらチョークレバーを完全に戻してください。(“ＯＦＦ”の状態)
8. キックスタータペダル及び、サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

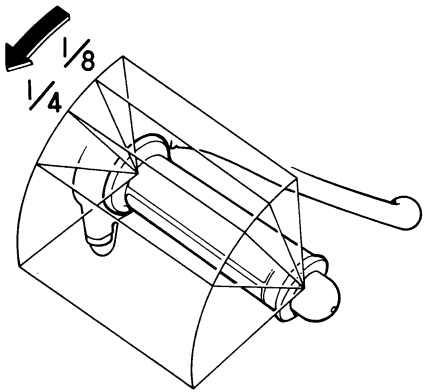
●エンジンがかからないときは、94ページ記載の要領で確認してください。



● エンジンが暖まっているとき

1. エンジンキルスイッチが“RUN”になっていることを確認します。
2. 燃料コックレバーが“ON”になっていることを確認します。
3. メインスイッチを“ON”にします。
4. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
5. スロットルグリップを**1／8から1／4ほど回し**、キックスタータペダルを力強くキックします。通常の場合これでエンジンがかかります。
6. キックスタータペダル及び、サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

● エンジンがかからないときは、94 ページ記載の要領で確認してください。



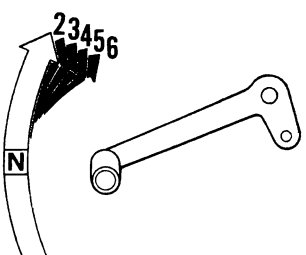
注意

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。**エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。**
- チェンジが入った状態で、クラッチを切らないでキックすると、飛び出しや転倒することがあります。必ずニュートラルを確認するか又はクラッチを切ってから始動してください。
- 無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。
- 交差点などで停車しているとき、スナッピングはしないでください。周囲の迷惑になるばかりでなく、プラグかぶりがおこりエンジンがストップすることがあります。

チェンジのしかた

チェンジは、右図のような6段リターン式です。

- 変速は、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行います。
- 軽くつま先で行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



走りかた

- 走行前に、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- サイドスタンドの動きがスムーズであることを確認してください。(89 ページ参照)
- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。右表は、その速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

	速度範囲
1 速	0 ～ 55km／h
2 速	20 ～ 80km／h
3 速	25 ～ 100km／h
4 速	40 ～ 120km／h
5 速	45 ～ 135km／h
6 速	60km／h以上

注意

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにホンダ販売店で調べましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

《慣らし運転》

最初の1,000km走行するまでは、エンジン回転を6,000回転以下で慣らし走行してください。慣らし運転を行うと、車の寿命をのばします。

《シフトダウンのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うと、エンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えます。右表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
6速→5速	145km／h以下
5速→4速	130km／h以下
4速→3速	110km／h以下
3速→2速	90km／h以下
2速→1速	60km／h以下

ブレーキの使いかた

- ブレーキは、**前後輪を同時に**使いましょう。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。

注意

- 前輪ブレーキまたは後輪ブレーキのどちらか一方のブレーキのみを使うと、車が横すべりして転倒する恐れがあります。
- 雨天走行や路面が濡れている場合、急激なブレーキをかけるとタイヤがスリップして転倒の原因になることがあります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなる恐れがありますので避けてください。

《エンジンブレーキ》

スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききますが、さらに強力なブレーキを必要とするときは5速、4速……とシフトダウンを行ってください。

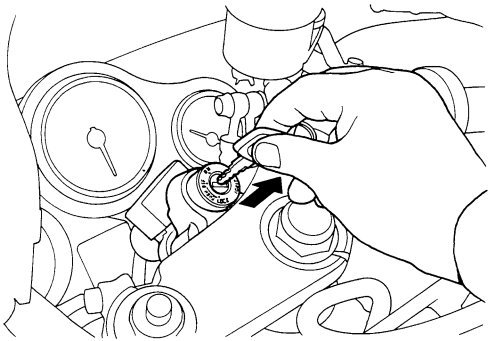
長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

注意

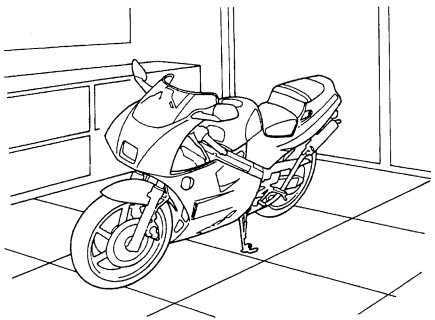
- 急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。47ページの表にしたがって行ってください。

点検、整備を安全に行うために

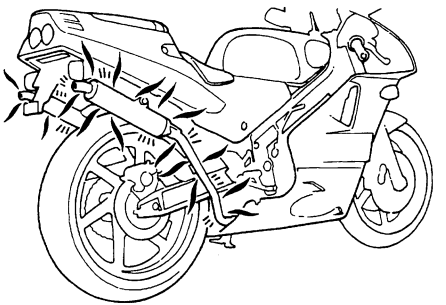
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。



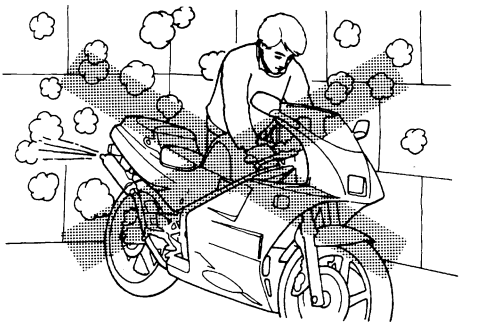
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



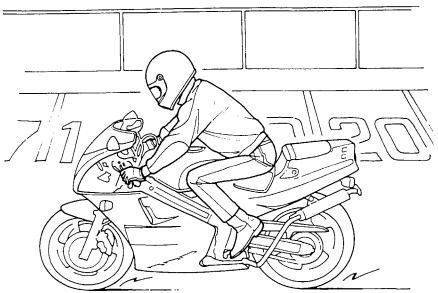
● エンジン停止直後の点検・整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。



● 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



● 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。



● リヤクッション

注意

- クッションユニットは高圧の窒素ガスが封入されておりますので下記事項を必ず守ってください。
  - 火中に入れたり、穴をあけたり、分解したりしないでください。
    爆発やオイルの吹き出しなどが起り、危険です。
  - 廃却する際は、ホンダ販売店へお申しつけください。

純正部品

あなたのお車に最適なホンダ純正部品をご使用ください。
純正部品は、厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。
ホンダ販売店でお求めになれます。
純正部品には、つぎのマークがついています。

本田技研工業株式会社

お車をご使用のかたには、法律（道路運送車両法）で、ご使用者の安全と車の事故を未然に防ぐため、**1日1回の運行前点検と6・12か月ごとの定期点検**を行うことが義務づけられています。

点検項目の詳細は、別冊「**整備手帳**」をご覧ください。

点検整備数値は、97ページのサービスデータをご参照ください。

異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはホンダ販売店で必ず整備をしてください。

運行前点検

運行前点検は、車を使用する人が、1日1回運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。

- ●前日の異状箇所
- ●ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合
- ●ブレーキリザーバタンクの液量
- ●タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異状な摩耗、金属片、石などの異物
- ※タイヤの溝の深さ
- ※エンジンオイル量
- ※燃料の量
- ※冷却水量
- ※冷却装置の水漏れ
- ●灯火装置、方向指示器
- ●後写鏡(バックミラー)の写影
- ●自動車登録番号標の汚れ、損傷
- ●反射器の汚れ、損傷

※印は、高速走行が可能な道路を、走行する予定がない場合には行わなくてもよい項目です。

注意事項

点検するときは、安全に十分注意してください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。

前日の異状箇所の点検

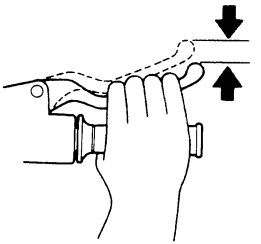
運行に支障がないかを点検します。

ブレーキの点検

《ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合》

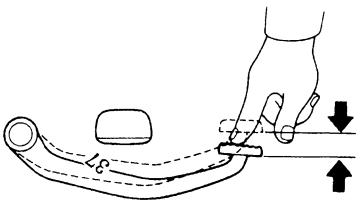
●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びが適当であるかを点検します。
ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



●ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びが適当であるかを点検します。
ブレーキペダルを強く押したとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



《ブレーキリザーバタンク液量の点検》

［前輪］

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にして点検します。液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。

［後輪］

平坦地で車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。

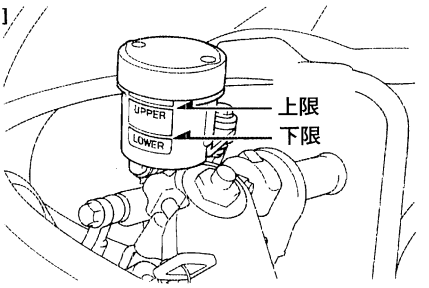
液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。右サイドカバーの点検窓から点検します。

ブレーキ液の補給は、78ページ参照。

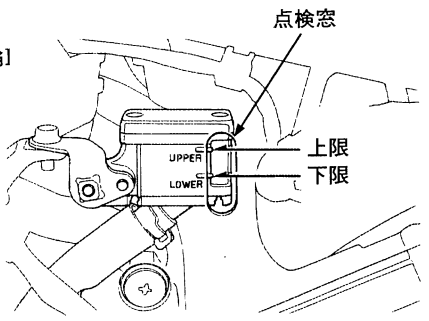
万一、液の減り方が著しい場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ブレーキホース、パイプの液漏れの点検をしてください。

ブレーキ液漏れの点検は、64 ページ参照。

［前輪］



［後輪］

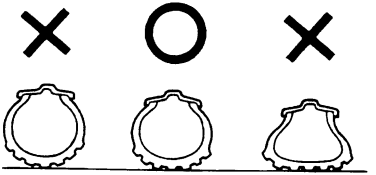


タイヤの点検

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異常な場合は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

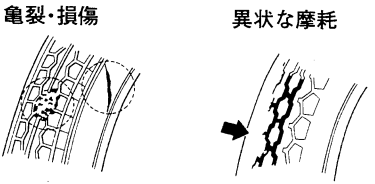


《亀裂・損傷》

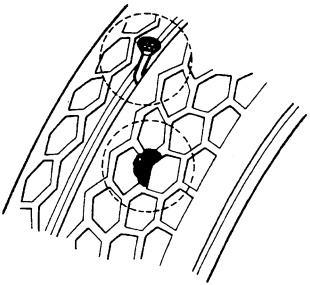
タイヤの接地面や側面に、著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

《異状な摩耗》

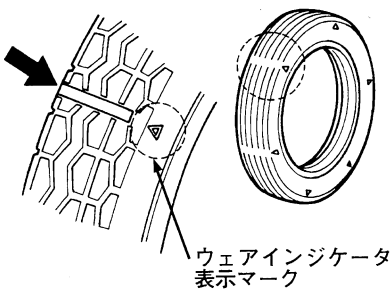
タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。



《金属片、石などの異物》
タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



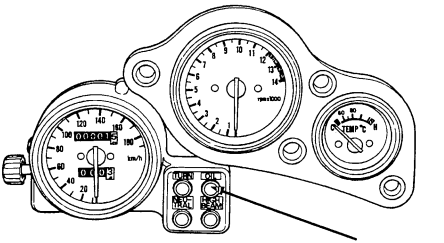
《溝の深さ》
溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(摩耗限度表示)により点検します。
ウェアインジケータがあらわれたらタイヤを交換してください。



注意
- 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

エンジンオイル量の点検

オイルが少なくなると、オイル警告灯が点灯します。
メインスイッチをＯＮにし、オイル警告灯が点灯しつづけないかを点検します。
オイル警告灯が点灯したままなら、オイルタンクにオイルを補給してください。
エンジンオイルの補給は、85 ページ参照。



オイル警告灯

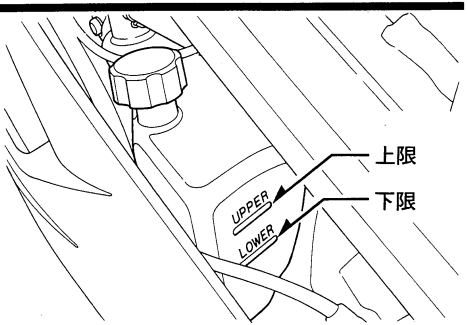
燃料の量の点検

ガソリンが目的地まで走行するのに十分な量であるかを点検します。

冷却装置の点検

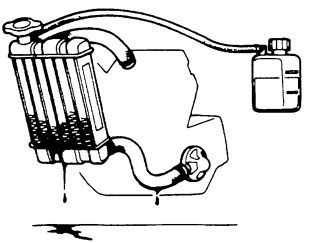
《冷却水量》

- 平坦地で車体を垂直にします。
- 冷却水量がリザーバタンクの上限と下限の間にあるかを点検します。水量が下限に近かったら、上限まで冷却水を補給してください。
  冷却水の補給は、88 ページ参照。



《冷却装置の水漏れ》

- ラジエータ、ラジエータホースなどから水漏れがないかを点検します。
  また車をとめておいた地面に、水が漏れたあとがないかを点検してください。



灯火装置、方向指示器の点検

《点滅具合、汚れ、損傷》

前照灯(ヘッドライト)、ポジションランプ、尾灯(テールランプ)／制動灯(ストップランプ)、方向指示器のスイッチを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。

このとき、レンズに汚れや損傷がないかを点検します。

後写鏡(バックミラー)の写影の点検

シートに座って、正しい運転姿勢をとったとき、後方が後写鏡に正しく写るかを確認し、点検します。

自動車番号標(ナンバプレート)の汚れ、損傷の点検

自動車登録番号標に汚れや損傷がないかを点検します。また、確実に取付いているか手でさわって確認し、点検します。

反射器の汚れ、損傷の点検

反射器に汚れ、損傷がないかを点検します。

6か月点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検で、法令によって定められています。
自家用2輪自動車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

- 6か月点検項目には、Ⓐ とⒷの項目があります。別冊「整備手帳」の点検整備方式の一覧表を参照してください。ここではⒶの項目とメーカ推奨項目の一部を選んで点検要領を説明してあります。

  Ⓐ···· 点検を行うに当たって、車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば、自らでも実施可能なもの。

  Ⓑ···· 点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取外しを伴うもの。

- 点検結果は、所定の記録用紙に記録する必要があります。ご自身でできない項目については、ホンダ販売店で点検を受け記録してください。
- 点検結果の記録用紙は、別冊整備手帳に綴込まれています。なお、記録は1か年保存してください。
- メーカ推奨項目の点検結果は、点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

注 意 事 項

点検するときは、安全に十分注意してください。

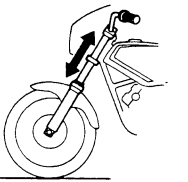
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

かじ取りホーク(フロントホーク)の点検

《損傷》

かじ取りホークに損傷がないか目視により点検します。

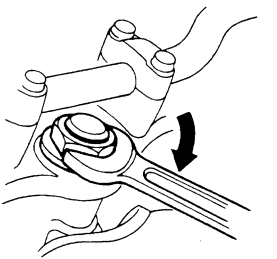
また、ハンドルを上下に動かし、かじ取りホークの曲りによる異音がないかを点検します。



《ホークスピンドル(ステアリングステム)の取付け状態》

ホークスピンドルの締付けナットにゆるみがないかをスパナなどの工具により点検します。

工具で点検できない場合は、ハンドルまたはかじ取りホークを上下、前後方向に動かし、がたがないかを点検します。

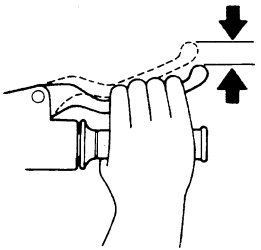


ブレーキの点検

《ブレーキペダルの遊び》

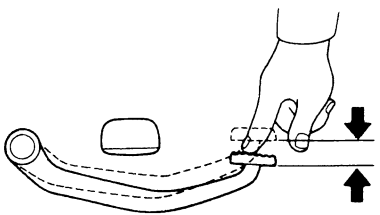
●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



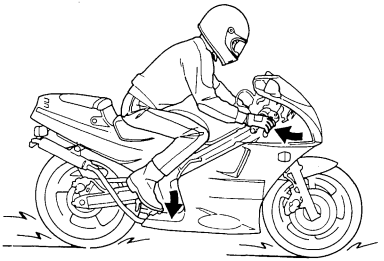
●後輪ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
ブレーキペダルを強く押したとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



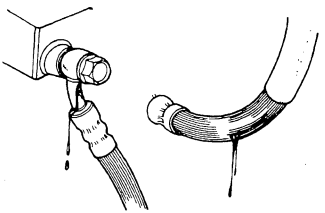
《ブレーキのきき具合》

乾燥した路面で、低速走行して前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させ、きき具合が十分であるかを点検します。



《ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取付け状態》

液漏れ、損傷がないかを目視などにより点検し、接続部、クランプに緩みがないかをスパナなどの工具で点検します。また、ハンドルを左右に切ったときや、走行中の振動でホース、パイプの保護部以外が、他の部品と接触する恐れがないかを点検します。



《ブレーキリザーバタンク液量の点検》

［前輪］

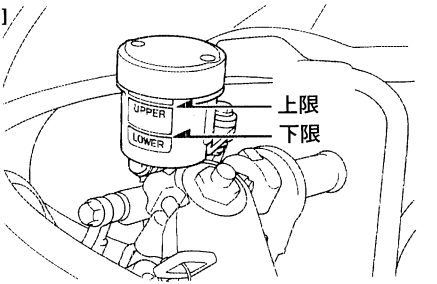
平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にして点検します。液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。

［後輪］

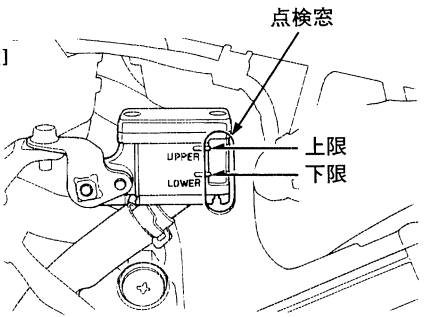
平坦地で車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。
液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。右サイドカバーの点検窓から点検します。
ブレーキ液の補給は、78ページ参照。

万一、液の減り方が著しい場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ブレーキホース、パイプの液漏れの点検をしてください。
ブレーキ液漏れの点検は、64 ページ参照。

［前輪］



［後輪］

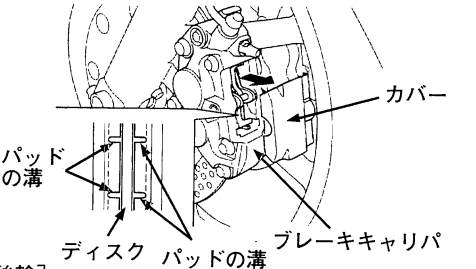


《ブレーキパッドの点検》(メーカ推奨項目)
ブレーキを作動させ、ブレーキパッドの摩耗を点検します。

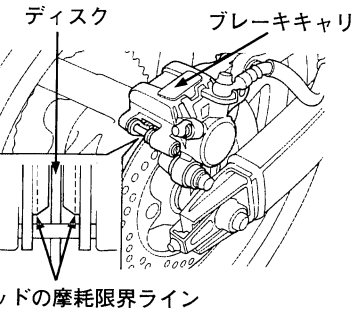
［前輪］
ブレーキキャリパのカバーを外し、パッドの溝がなくなったら、パッドの摩耗限界です。

［後輪］
ブレーキキャリパの後側からのぞいて、パッドの摩耗限界ラインがブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

［前輪］



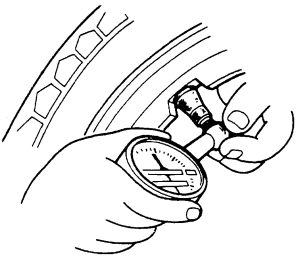
［後輪］



タイヤの点検

《タイヤの空気圧》

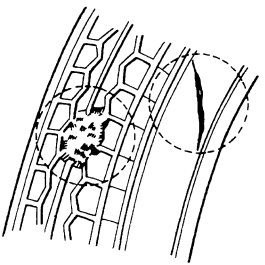
タイヤの空気圧をタイヤゲージで点検します。
空気圧は、タイヤが冷えているときに測定してください。



《亀裂と損傷》

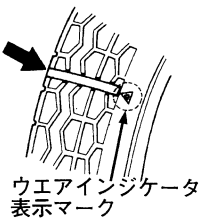
タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。

亀裂・損傷

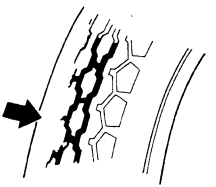


《溝の深さと異状な摩耗》

- 溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（摩耗限度表示）により点検します。
- ウェアインジケータがあらわれたらタイヤを交換してください。
- タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

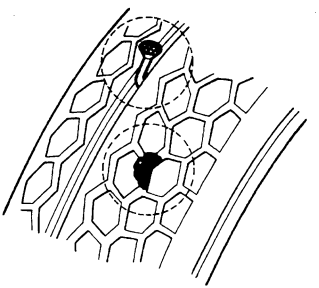


異状な摩耗



《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



注意

- 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

バッテリ液量の点検

この車には、密閉式のメインテナンスフリーバッテリが装備されております。バッテリ液の点検、補給は不要です。異常が認められた場合は、ホンダ販売店で整備してください。

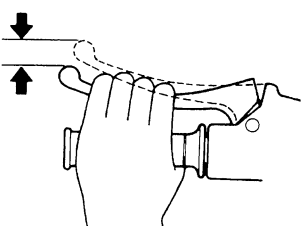
注意

- 密閉式バッテリですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
- 長期間使用しない場合は、自己放電と電気もれを少なくするため、車からバッテリを降ろし完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、⊖側ターミナルを外してください。

クラッチの点検

《レバーの遊び》

抵抗を感じるまで、手でクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。



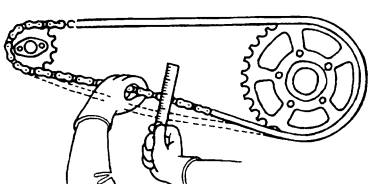
《クラッチの作用》

- アイドリング状態で、クラッチレバーをいっぱいに引いたとき異音がしないか、異常に重くないかを点検します。
- クラッチレバーを徐々に離して発進したとき滑りがなく、接続が滑らかであるかを点検します。

ドライブチェンの点検

《ドライブチェーンのたるみ》

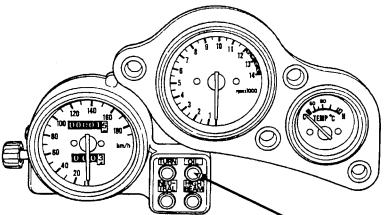
- スタンドを立て前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのたるみが規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
  また、車体を垂直にし、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転するかを点検します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。
- チェーンの給油状態を点検します。給油を必要とする場合は、87 ページを参照してください。



エンジンオイルの点検

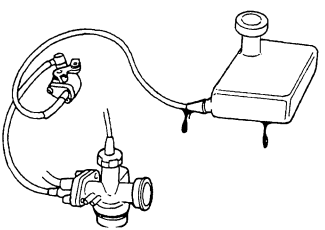
《オイルの量》

オイルが少なくなると、オイル警告灯が点灯します。
オイル警告灯が点灯したら、タンクにオイルを補給してください。
エンジンオイルの補給は、85 ページ参照。



《油漏れ》

オイルタンクおよびオイルホースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。



トランスミッションオイルの点検

《オイルの量》

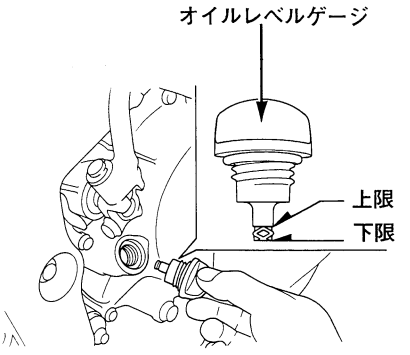
- 平坦地でエンジンを２～３分間アイドリング回転させエンジン停止２～３分後に車体を垂直にし、トランスミッションオイル量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- オイルレベルゲージをねじ込まず差し込んで点検してください。
- オイル量が下限に近かったら、上限まで補給してください。
- 補給後、オイルレベルゲージを確実に取付けます。

《推奨オイル》

“ホンダ純正オイル　ウルトラ－U（４サイクルニ輪車用）”またはＡＰＩ　ＳＥ級の10W－30のエンジンオイル。

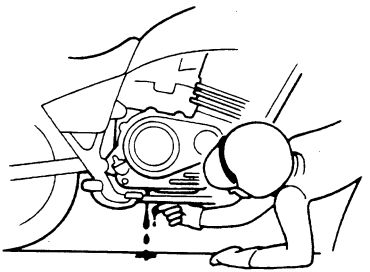
《推奨交換時期》

２年ごと



《油漏れ》

クランクケースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。

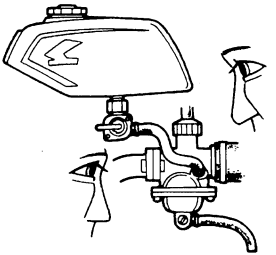


注意

- 補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

燃料漏れの点検

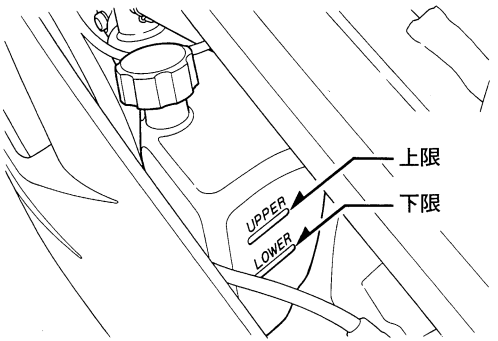
燃料コック、燃料タンク、ホース、パイプ、キャブレータなどからガソリン漏れがないかを点検します。



冷却水量の点検

《冷却水量》

- 平坦地で車体を垂直にします。
- 冷却水量がリザーバタンクの上限と下限の間にあるかを点検します。水量が下限に近かったら、上限まで冷却水を補給してください。
  冷却水の補給は、88 ページ参照。

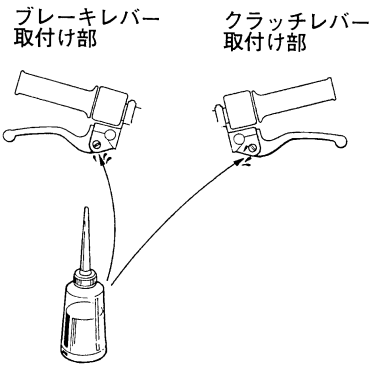


灯火装置、方向指示器の作用の点検

- 前照灯(ヘッドライト)、ポジションランプ、制動灯(ストップランプ)および尾灯(テールランプ)のスイッチを作動させ点灯具合を点検します。また前照灯の明るさや、照射方向に異常がないかを壁面にあてるなどして点検します。
- 左右の方向指示器を作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
- 前照灯(ヘッドライト)、尾灯(テールランプ)、制動灯(ストップランプ)、方向指示器のレンズに変色、損傷がないか、また、取付けにゆるみがないかを点検します。

シャシ各部の給油脂状態

シャシ各部の給油状態が十分であるかを目視などにより点検します。



簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要になった場合、通常行われることが多いものの代表例について、その実施方法を説明してあります。

注意事項

整備するときは、安全に十分注意してください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- エンジン停止直後の整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

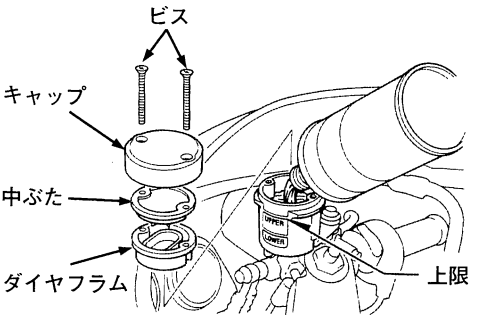
ブレーキ液の補給

［前輪］

1. ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。
2. リザーバタンク外周のゴミ、汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に落ちないようにします。
3. ビスを外し、キャップ、中ぶた、ダイヤフラムを取外します。
4. リザーバタンクの上限(ＵＰＰＥＲ)まで指定ブレーキ液を補給します。
5. ダイヤフラムの方向性とかみ込みに注意して、ビスでキャップを確実に締付ます。

《指定液》

ホンダブレーキフルードＤＯＴ４



［後輪］

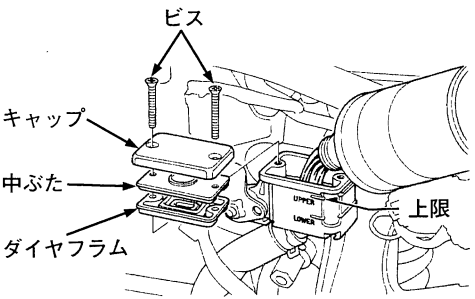
1．サイドカバーを取外します。(37ページ参照)
2．リザーバタンク外周のゴミ、汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に落ちないようにします。
3．ビスを外し、キャップ、中ぶた、ダイヤフラムを取外します。
4．リザーバタンクの上限(ＵＰＰＥＲ)まで指定
5．ブレーキ液を補給します。
ダイヤフラムの方向性とかみ込みに注意して、ビスでキャップを確実に締付けます。
6．サイドカバーを取付けます。(37ページ参照)

《指定液》

ホンダブレーキフルードＤＯＴ４

注意

- 上限レベルラインを越えて、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液がにじみ出ることがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。
- ブレーキ液の減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の異常です。
- 化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
- ブレーキ液は塗装面をいためるので、部品類に付着させないでください。付着させたら、すぐに拭き取ってください。



クラッチレバーの遊びの調整

クラッチケーブルのクラッチレバー側またはクラッチ側のアジャスタにより遊びを調整します。

- 主調整は、左右のメンテナンスリッドとロワカウルを取外して、クラッチ側のロックナットをゆるめアジャスタで行います。
- 微調整は、クラッチレバー側のロックナットをゆるめアジャスタを回して行います。
- 調整後、ロックナットを締付けます。

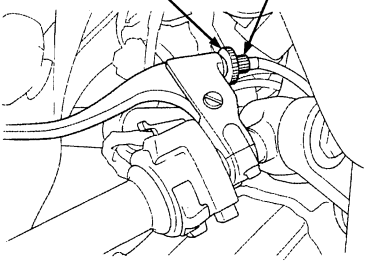
メンテナンスリッド、ロワカウルの取外しは、38、39ページを参照してください。

調整後、クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで確認します。

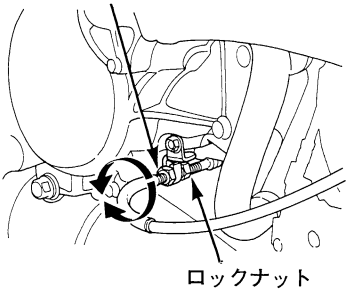
注意

- 調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出し等がないか確認してください。

《微調整》 ロックナット アジャスタ



《主調整》 アジャスタ



バッテリターミナル部の清掃

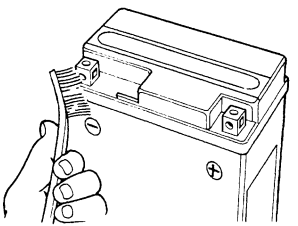
ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、バッテリを取外して清掃します。

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、バッテリコードを外し、ワイヤブラシまたはサンドペーパで磨きます。
  清掃後、バッテリコードを取付け、ターミナル部にグリースを薄く塗っておきます。

注意

- ターミナルからバッテリコードを取外す場合は、メインスイッチを“ＯＦＦ”にし、必ず㊀側バッテリコードから外してください。取付けの場合は、㊉側コードを先に取付け、次に㊀側コードを取付けてください。ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。

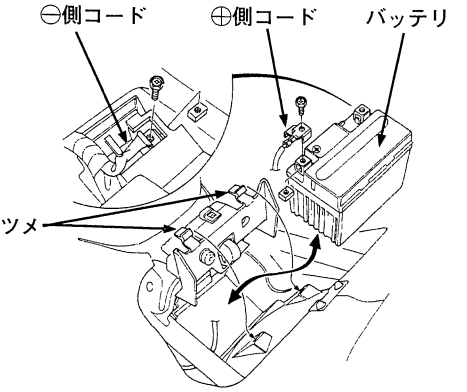
- バッテリを取扱うときは火気を近づけないでください。
- バッテリを交換する場合は、必ずメンテナンスフリーバッテリをご使用ください。



《バッテリの取付け、取外し》

取外し

1. フロントシートを取外します。(30 ページ参照)
2. ⊖側のボルトを外し、⊖側コードを外します。
3. ツメを前方に押しながら、バッテリケースカバーを開けます。
4. ⊕側のボルトを外し、⊕側コードを外します。
5. バッテリを取り出します。



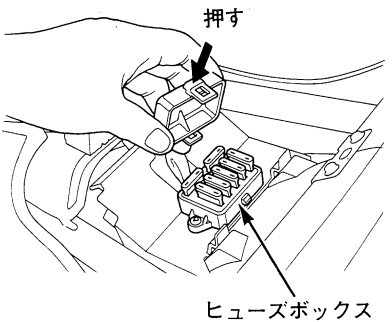
取付け

取外しの逆手順でバッテリを取付けます。

ヒューズの交換

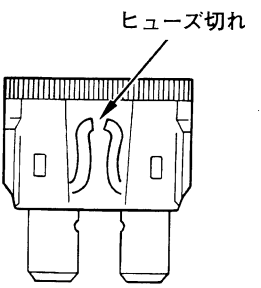
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないかを点検します。
ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

- ヒューズボックスは、フロントシート下に取付けられています。
  フロントシートの取外しは、33 ページを参照してください。
- 故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認します。
- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は異常です。



注意

- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。
- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。
- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりをおこすことがあります。
- 洗車時ヒューズホルダのまわりから水を強く吹きつけることは避けてください。



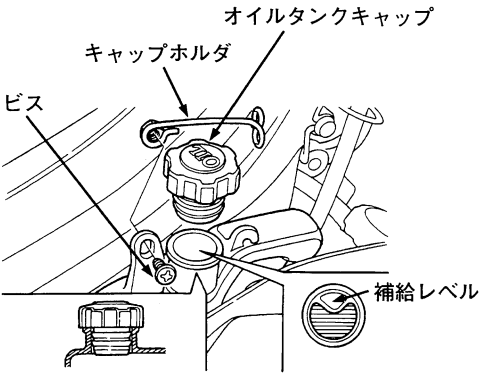
エンジンオイルの補給

オイル警告灯が点灯したら、オイルを補給します。

1. 平坦地でスタンドを立て、エンジンを停止します。
2. ビスを外し、キャップホルダを外します。
3. オイルタンクキャップをおこすように引き抜きます。
4. オイルを補給レベルまで補給します。
5. オイルタンクキャップを取付けます。
   - キャップは、2段モーションになっていますので、押込むと重くなるところがあります。この位置からもう一度、強く根元まで確実に押込んでください。
6. キャップホルダをセットし、ビスで締め付けます。

《推奨オイル》

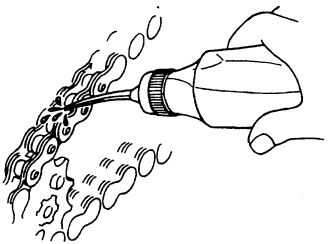
ホンダウルトラＧＰ２（分離給油用＝赤色）



注意

- 推奨オイル、ホンダウルトラＧＰ２と他社銘柄オイルとの混用はエンジン不調の原因になりますので避けてください。
- オイル補給後、ゴミ、ホコリなどの混入がないようにご注意ください。
- 補給後、しっかりキャップを取付けてください。
- オイルは補給レベル以上に入れないでください。オイルがにじみ出る恐れがあります。

ドライブチェーンの給油



- 車体を前後に少しづつ動かしてはスタンドを立て、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落します。
  汚れを落した後、給油を行います。オイルがチェーン各部によくゆきわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

《指定オイル》

“ホンダ純正チェーンオイル”またはギヤオイル（#80～#90）

注意

- チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないよう注意してください。
- このチェーンは、ゴムのシールを使用しているのでスチーム洗浄は行わないでください。またホンダ純正チェーンオイル以外の溶剤入り潤滑油（チェーンスプレー等）は、チェーンの寿命を縮めるものがあるので使用しないでください。

冷却水の補給

通常はラジエータキャップを外さないでください。

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. リザーバタンクのキャップを外し、タンクの上限まで冷却水を補給します。

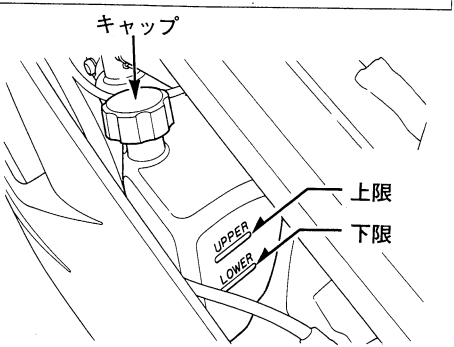
リザーバタンクに冷却水がない場合は、ホンダ販売店で点検整備を行ってください。

《指定液》

指定液　:ホンダ純正ウルトラジエータ液
規定濃度:30%(寒冷地は50%)
濃度による不凍温度は
30%の場合　−16° Cまで
50%の場合　−37° Cまで

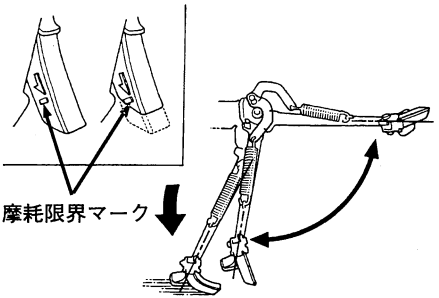
注意

- 冷却水の減り具合が著しいときはラジエータ本体、チューブなどからの漏れが考えられます。ホンダ販売店で点検整備を受けてください。
- ラジエータ液を薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。
- 粗悪なラジエータ液を使用するとエンジンの寿命を縮めますので注意してください。



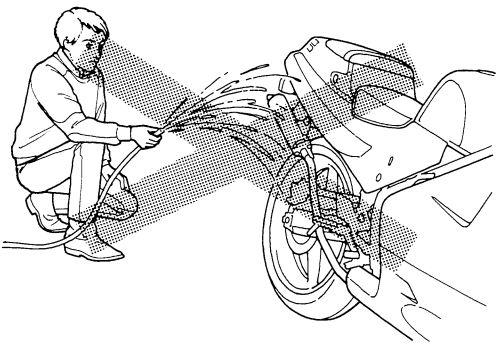
サイドスタンドの点検

- サイドスタンドラバーが摩耗限界マークまで摩耗したら、ラバーの使用限界です。
- サイドスタンドの作動を点検します。
  車体を立てた時、スタンドが後方へ少し動き、その位置からスタンドが滑らかに格納するか点検します。

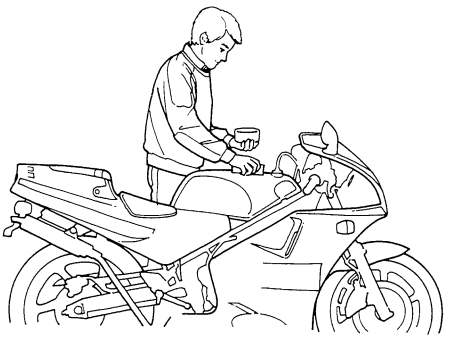


車のお手入れ

- 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。



- 車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。



アルミ部品、＊マグネシウムホイールの取扱い

サイレンサ、ホイール、フレームはアルミニウム合金を使用しています。但し、ＮＳＲ２５０Ｒ　ＳＰのホイールは、マグネシウム合金製です。アルミ部品やマグネシウムホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

〈お手入れ〉

- アルミ部品やマグネシウムホイールは、塩分など汚れを嫌いますので、海水及び道路凍結防止剤などが付いたときには、早めに、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを落した後、十分に水洗いをしてから乾いた布で水分を拭き取ってください。
- 砂入り石鹸や硬いブラシは、アルミ部品やマグネシウムホイールを傷つけますので使用しないでください。
- アルミ部品やマグネシウムホイールのお手入れには“ホンダ純正アルミホイールクリーナ”をおすすめします。

＊……ＮＳＲ250Ｒ　ＳＰのみ

〈取扱い〉

- アルミ部品やマグネシウムホイールには、傷がつきやすいのでかためのものでこすったり、すり当てたりしないでください。
  特に、アルミサイレンサは傷がつきやすいので取扱いには十分注意してください。
  サイレンサに浅い傷がついた時は、コンパウンドワックスでみがいてください。
- マグネシウムホイールの表面に傷がついた場合は、汚れを取除いてから、補修用塗料を塗って補修してください。
  補修用塗料は、“ホンダ純正タッチアップペイント「マグテックゴールドメタリック」”をおすすめします。

注意

- エンジン停止直後は、エンジン本体、エキゾーストパイプ、マフラなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

エキゾーストパイプの取扱い

エキゾーストパイプはステンレス鋼を使用していますので、油脂等の汚れが付着したままで、エンジンを始動すると焼けムラが起ります。

《手入れ方法》

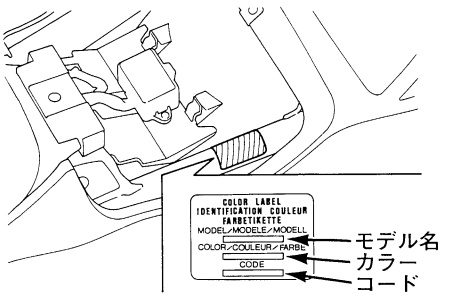
- 汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。
- 焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いた後、汚れが付着した場合と同じ要領で汚れを洗い落としてください。

注意

- エンジン停止直後は、エンジン本体、エキゾーストパイプ、マフラなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルのモデル名とカラー、コードもお知らせください。
カラーラベルは、フロントシート下のフレーム上に貼ってあります。
フロントシートを取外すと(33ページ参照)カラーラベルが確認できます。



エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。
- エンジンキルスイッチはＲＵＮになっていますか。ＯＦＦの状態になっていたときは、次のことを行ってください。

1．メインスイッチをＯＦＦにします。
2．チョークレバーを完全に戻します。
3．スロットルを全開にします。
4．キックペダルを４～５回踏んでエンジンを回します。
5．メインスイッチをＯＮにし 42 ページの始動要領でエンジンをかけてください。

故障の修理

- お近くのホンダ販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くホンダ販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元

〈 〉内はＮＳＲ250Ｒ　ＳＰ

型式		MC18
長さ		1,980 mm
幅		650 mm
高さ		1,060 mm
軸距		1,345 mm
総排気量		0.249 ℓ
車両重量		149 kg〈150 kg〉
乗車定員		2人
タイヤ	前輪	110／70R17　54H
	後輪	150／60R18　67H
最低地上高		135 mm
燃料消費率		30.2km／ℓ(車速50km／h)
制動停止距離		14.0m(初速50km／h)
最小回転半径		2.9m
圧縮比		7.3
圧縮圧力		10.0 kg/cm²—400rpm
最高出力		45ps／9,500rpm
最大トルク		3.8kgm／8,000rpm
エンジンオイル容量(分離給油)		1.3 ℓ
トランスミッションオイル容量		0.8 ℓ
燃料タンク容量		16 ℓ

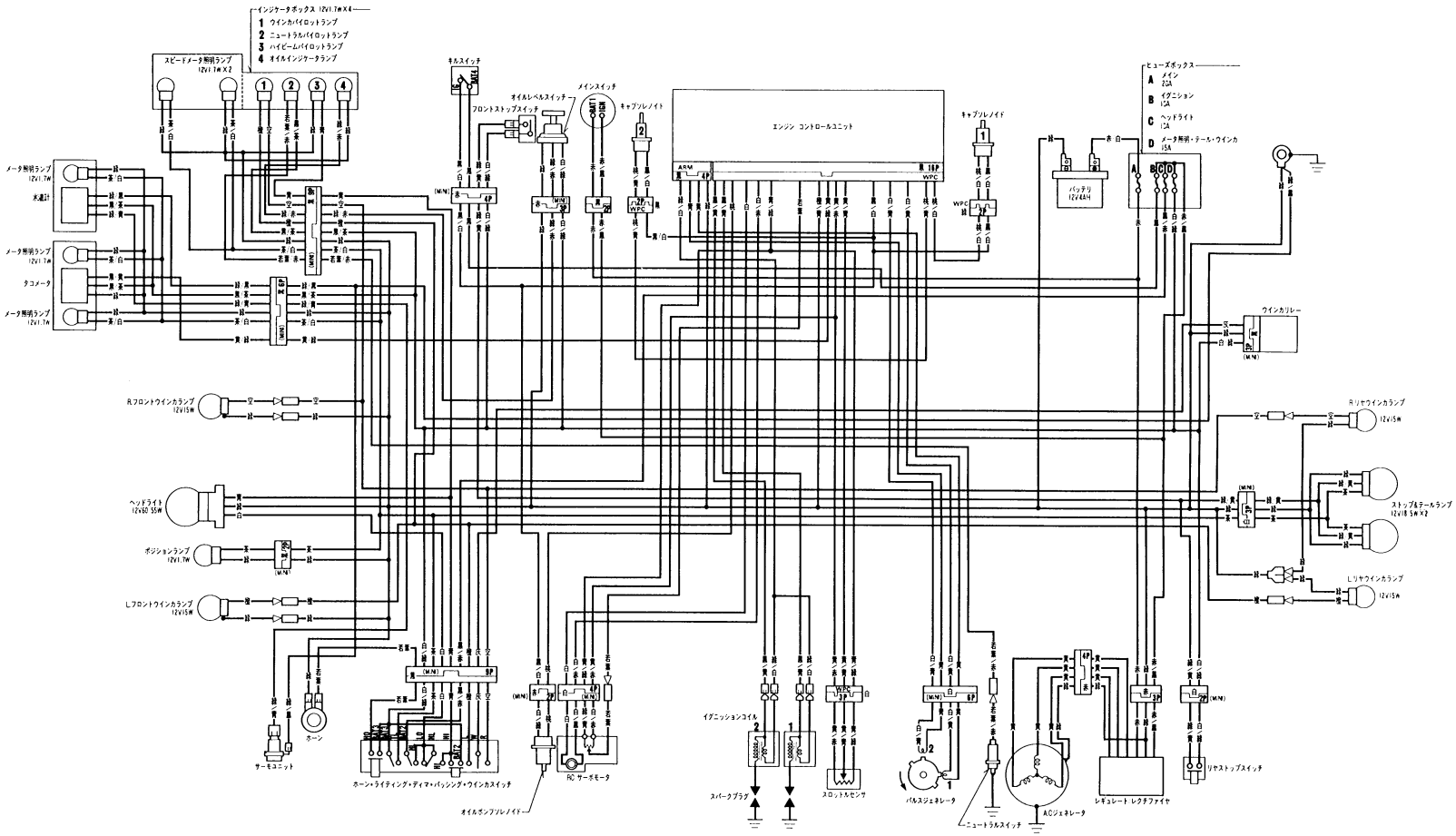
〈 〉内はＮＳＲ250Ｒ　ＳＰ

点火形式		ＣＤＩ式バッテリ点火
点火時期	前シリンダ	ＢＴＤＣ15°／1,200ｒｐｍ
	後シリンダ	ＢＴＤＣ５°／1,200ｒｐｍ
点火プラグ	ＮＧＫ	ＢＲ９ＥＣＭ ＢＲ10ＥＣＭ
	ＮＤ	Ｗ27ＥＭＲ－Ｃ Ｗ31ＥＭＲ－Ｃ
蓄電池（バッテリ）		12Ｖ－３Ａｈ
機関から変速機までの減速比		2.360
クラッチ形式		湿式多板コイルスプリング 〈乾式多板コイルスプリング〉
変速機形式		常時噛合式
変速機操作方式		左足動式
変速比	１速	2.846
	２速	2.000
	３速	1.631
	４速	1.368
	５速	1.250
	６速	1.173
第一減速比		2.800

ドライブチェーンのたるみ			15-25 mm
前輪ブレーキレバーの遊び			20-30 mm
後輪ブレーキペダルの遊び			10-20 mm
タイヤ空気圧	1人乗車	前輪	2.25 kg/cm²
		後輪	2.25 kg/cm²
	2人乗車	前輪	2.25 kg/cm²
		後輪	2.50 kg/cm²
エンジンオイルの量	全容量		1.3 ℓ
トランスミッションオイルの量	全容量		0.8 ℓ
	オイル交換時		0.7 ℓ
クラッチレバーの遊び			10-20 mm
ヒューズ	メインヒューズ		20A
	ヒューズ		10A,15A
点火プラグの点火すきま			0.7-0.8 mm
エアクリーナエレメント	形式		ウレタンフォーム式

配線図

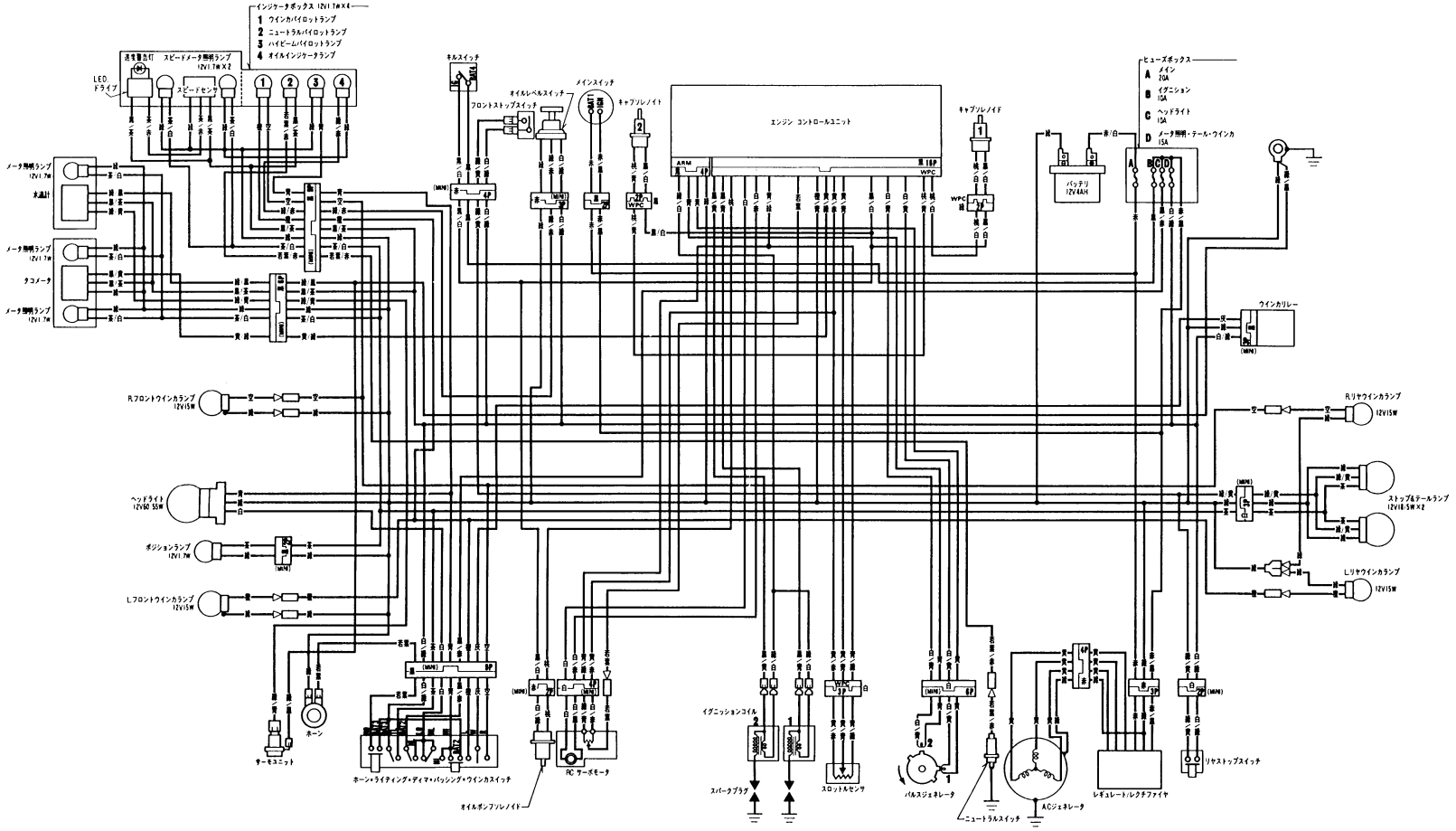
NSR250R・NSR250R SP



0030Z—KV3—7700

バルブ(電球)の交換の場合は，必ず規定のワット数のものを使用してください。

配線図　　NSR250R・NSR250R SP〈速度警告灯装備車〉



0030Z−KV3−7900

バルブ(電球)の交換の場合は，必ず規定のワット数のものを使用してください。